

解説3

「SOLIDWORKS PDM」の 機能・特徴と事例

ソリッドワークス・ジャパン 鈴木 康之*

*すずき やすゆき：営業技術部 シニアテクニカルプロダクトマーケティング

概要

1. SOLIDWORKS PDMの特徴

SOLIDWORKS PDMの特徴を以下に示す。

- ・製品開発業務に必要な機能に絞っており、短期間で導入可能
- ・ローカルキャッシュにより、大規模アセンブリにも高速にアクセス可能
- ・ボルト (Vault：図面庫) の複製により、遠隔地からの大規模アセンブリへのアクセスにも対応
- ・Windows エクスプローラーやSOLIDWORKS からローカルファイルと同じ感覚で設計データにアクセス可能

2. SOLIDWORKS PDMの位置づけ

SOLIDWORKS PDMは主にSOLIDWORKSのデータを管理するための製品データ管理 (Product Data Management) アプリケーションである。製造業の全製品ライフサイクルのうちSOLIDWORKSを用いた設計を中心とした開発業務での製品データ管理に的を絞っているが、Office 文書や他社CADのデータも保存して管理できる (図1)。そのためPLM (Product Lifecycle Management) ではなくPDMという名称を使っている。PDMはPLMの中でも最も中心となる機能と言える。

SOLIDWORKS PDMは具体的に次の工程の業務を支援している。

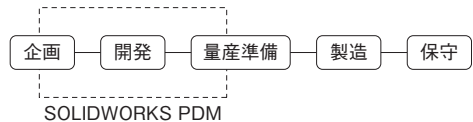


図1 全製品ライフサイクルの中の位置づけ

- ・製品企画の成果物である製品仕様書などの受け取りと管理
- ・製品開発中の設計データ、解析データ、実験データなど、あらゆるデータの管理
- ・製品開発の成果物である図面やEBOMを量産準備のために生産部門に提出

3. SOLIDWORKS PDMのアーキテクチャ

SOLIDWORKS PDMにはSOLIDWORKS Professional以上のエディションのCADに付属するSOLIDWORKS PDM Standardと、SOLIDWORKS CADとは別売製品であるSOLIDWORKS PDM Professionalの2つのパッケージがある。SOLIDWORKS PDM Standardは、使用するデータベースがMicrosoft® SQL Server Expressに限定されるため、数人での小規模アセンブリへの使用を想定している。本特集のテーマである3次元大規模アセンブリ設計には適応できないため、以降はSOLIDWORKS PDM Professionalを前提に解説する。

SOLIDWORKS PDMはクライアントサーバーモデルのアーキテクチャを採用している (図2)。サーバーはWindows Server上で動作し、主に2種類からなる。